

(プレス資料)

2011年1月27日(帆船日本丸進水記念日)

社団法人 全日本船舶職員協会

## 海洋・海事に関わる関係者の連携強化を！

今回、鹿児島大学水産学部を独立行政法人航海訓練所の帆船練習船「海王丸」が表敬訪問するに至った経緯を以下のとおりご案内し、この機会を商船・水産はもとより、広く海洋・海事に関わる関係者の連携強化を図る機会と捉えたい。

なお、水産系の船員養成については、十分な知識がないので、船員教育の紹介については、商船系に偏る嫌いがあることをお許しいただきたい。

(参考)

社団法人「全日本船舶職員協会」は、「海事に関する学術制度、その他の事項を攻究し、商船教育の振興及び船舶職員の福利をはかり、併せて会員相互の親睦と人格技能の向上に資し、もって我が国海運の発展に寄与すること」を目的としている。昭和5年に設立された「全国商船学校十一会」が、その前身となっている。

また、独立行政法人「航海訓練所」は、現在、全国に15ある商船系学校において、航海士や機関士になるための座学教育を受けている学生・生徒を一元的に練習船隊に受け入れ、乗船訓練を実施する機関である。昭和5年に文部省に設置された「航海練習所」が、その前身となっている。

鹿児島大学水産学部については、ご案内のとおりであり、紹介を割愛する。

## 第 I 船員教育の今昔

### 1 世論を動かした霧島丸遭難

我が国の商船教育は、明治初期に始まり、昭和初期においては、官立商船学校2校と地方の公立商船学校11校があった。

官立の東京高等商船学校及び神戸高等商船学校は、それぞれ大型の帆船練習船を保有して学生の訓練に当たっていた。前者が「大成丸」(2,423トン)、後者が「進徳丸」(2,518トン)であった。

公立商船学校の場合、練習船を保有していたのは5校のみであり、しかも小型木造であったため、練習船の海難が相次ぎ、大型の練習帆船の建造が待ち望まれていた。

鹿児島県立商船水産学校の練習船「霧島丸」(997トン)は、福岡からマーシャル諸島へ向う途次、伊豆下田港へ寄港した後、昭和2年3月9日、千葉県犬吠埼沖で台風に遭

## (プレス資料)

遇して遭難し、実習生 30 名・乗組員 23 名合わせ 53 名全員が犠牲となった。

霧島丸の救助・捜索活動は、海軍の艦船・飛行機、練習船、調査船、漁船、民間船などにより、大々的に行われた。しかし、一片の遺品も回収されることはなかった。

全国 11 の公立商船学校の関係者有志が一丸となって団結し、大型帆船練習船の建造を実現すべく、政府、国会に働きかけた。この運動と捜索救助に係る報道が相俟って、世論を動かし、その結果、霧島丸遭難の翌年、昭和 3 年に 2 隻の帆船練習船建造の国家予算が承認された。

## 2 帆船練習船「日本丸」・「海王丸」と「全国商船学校十一会」の誕生

1) 昭和 5 年、2 隻の帆船練習船が誕生した。当時の田中隆三文部大臣の「日本の海の王者にふさわしい船にしたい」という、我が国の海運に寄せる期待を込めて、「日本丸」、「海王丸」と命名された。

同年、公立商船学校の共同利用施設として「航海練習所」が文部省に設置され、誕生した 2 隻の管理・運営にあたることとなった。現在の独立行政法人「航海訓練所」(以下、「航海訓練所」という。)の前身である。

2) 同じく昭和 5 年、帆船練習船建造の目的を達成した全国 11 の公立商船学校有志により、「全国商船学校十一会」(以下、「十一会」という。)が設立された。その後、名称を変更し、現在「社団法人 全日本船舶職員協会」(以下、「全船協」という。)となっている。

## 3 鹿児島県立商船水産学校の廃校から鹿児島大学水産学部へ

昭和初期の世界恐慌や先の大戦などの影響によって、11 の公立商船学校のうち、6 校が廃校となった。

鹿児島県立商船水産学校は、水産科の枕崎への分離などの経緯を経て国立鹿児島商船学校と名称を変更していたが、昭和 21 年に廃校となった。同校の生徒は、山口県立大島商船学校へ転入した。

廃校となった同校の敷地等を受け継いで、同年に、国立鹿児島水産専門学校が創設された。昭和 22 年、同水産専門学校の練習船として、曙丸(880 トン)が運輸省航海訓練所から移管された。

昭和 24 年 5 月、鹿児島大学が設置され、国立鹿児島水産専門学校は、同大学の水産学部となった。昭和 25 年、曙丸の代替船として「かごしま丸」(初代、628 トン)が新造された。現在の附属練習船「かごしま丸」(1,292.75 トン)は、三代目である。

日本丸が建造されたとき、同時に、その模型も一つのみ製作され、日本丸と一緒に文部省に引き渡された。文部大臣室に展示されていたその模型を、昭和 24 年、鹿児島水産専門学校の練習船「曙丸」が、東京に寄港した際、当時の山本校長が、「霧島丸ゆかりの鹿児島で、水産学校生に見せ、海の男を育てたい」ともらい受け、現在、鹿児島大学水

## (プレス資料)

産学部に保管されている。

### 4 戦後の商船教育

- 1) 6校が廃止され、5校となった公立商船学校は、いずれも戦争勃発前に文部省に移管され、国立商船高等学校となった。昭和42年、各校は、高等専門学校へ昇格した。平成16年、文部科学省所管の独立行政法人「国立高等専門学校機構」が設置され、5校は、同機構に所属することとなり、現在、富山高等専門学校、鳥羽商船高等専門学校（三重県）、大島商船高等専門学校（山口県）、広島商船高等専門学校、弓削商船高等専門学校（愛媛県）となっている。
- 2) 官立の高等商船学校2校は、戦後、国立の東京商船大学及び神戸商船大学となった。平成16年、東京商船大学は、東京水産大学と統合し、国立大学法人「東京海洋大学」海洋工学部となり、神戸商船大学は、神戸大学と統合し、国立大学法人「神戸大学」海事科学部となっている。
- 3) 文部省の「航海練習所」は、昭和18年、逓信省に設置された「航海訓練所」にその使命を譲った。これは、日本丸・海王丸と高等商船学校の大成丸・進徳丸を合わせ、4隻を一括管理運用し、より効率的な船員養成を図るためであった。戦時における船員養成の需要が増大する中、戦時標準型練習船が新造された。その1隻が曙丸であった。航海訓練所は、戦後、運輸省の組織となり、現在は、国土交通省所管の独立行政法人となっている。その練習船隊は、2隻の帆船練習船「日本丸」・「海王丸」（いずれも二代目）と3隻の汽船練習船「大成丸」（三代目）・「銀河丸」（三代目）・「青雲丸」（二代目）で構成されている。

なお、初代日本丸は、昭和59年に二世にその役目を引き継ぎ、現在は横浜市内みなとみらい地区の日本丸メモリアルパークで保存活用されている。

また、初代海王丸は、平成元年に二世にその役目を引き継ぎ、現在は富山県射水市市内の海王丸パークで保存活用されている。
- 4) 上記各商船系の学校は、海外との貿易輸送に従事する商船に乗り組む航海士又は機関士の養成を主たる目的としてきたが、それらの資格を要しない船員の養成を目的とし、又は船員の再教育を目的としてきた学校があった。それらは、現在、国土交通省所管の独立行政法人「海技教育機構」に所属し、国内輸送に従事する船舶の航海士や機関士を養成する海上技術学校など7校、及び船員の再教育を主たる目的とする海技大学校となっている。

## 第Ⅱ 風化させてはならない霧島丸遭難の史実

### 1 霧島丸遭難の記録

昭和2年10月、鹿児島県立商船水産学校の校庭で慰霊祭が盛大に行われた。

## (プレス資料)

国内はもとより、ハワイ、アメリカからも義援金が寄せられ、その一部を充てて、昭和5年に霧島丸遭難記念碑が建立された。その碑文には、福岡発からSOS発信の行動概要、捜索活動の様子、慰霊祭の様子が記されており、碑の後面に犠牲者の氏名が刻まれている。

また、犠牲となった実習生等の氏名・遺影、葬儀の状況、捜索に加わった船舶の船影、思い出の地伊豆下田港、犬吠埼等の写真を収めた額が作成され、同船の遭難を契機として建設された記念館に蔵置された。

碑の題字「壮烈」及び額の「壮烈」の文字は、いずれも東郷平八郎元帥の直筆による。

## 2 霧島丸殉難者 53 柱の「戦没船員の碑」への奉安

東京湾口を一望する神奈川県観音崎に「戦没船員の碑」がある。「安らかに眠れ 我が友よ 波静かなれ とこしえに」と碑に記されているように、海底に眠る戦没船員の御霊を慰めるとともに、二度と戦火のない永遠の平和を祈念するため、昭和46年に建立された。

昭和46年以来、毎年、その碑の前で追悼式が催されている。第1回の追悼式に、皇太子同妃両殿下（現在の天皇皇后両陛下）の御臨席を仰ぎ、その後も度々、皇室、皇族の御臨席を賜わっている。

戦没船員に加えて、殉職船員や殉難した実習生が奉安者名簿に追加されることになり、霧島丸殉難者 53 柱の御霊は、平成16年5月に催された第34回「戦没・殉職船員追悼式」において、「戦没船員の碑」へ合祀された。

なお、昭和31年及び昭和51年には、霧島丸殉難者のご遺族、鹿児島商船学校同窓会、鹿児島大学水産学部、同水産学部の同窓会「魚水会」によって、遭難30周年記念行事や50回忌が行われた。

## 3 霧島丸遭難記念碑の「説明文碑」完成

霧島丸遭難記念碑のある鹿児島大学水産学部の学生や学校関係者でさえ、この記念碑について関心が薄くなっている。これを危惧した、「魚水会」及び鹿児島商船学校同窓会の関係者から、53名の犠牲と引き換えに、世界に誇る帆船練習船が建造された史実を決して忘れず、後世に伝えるため、何とか「説明文」を作ろうという声が、あがった。

それら関係者の尽力により、平成21年6月、霧島丸遭難記念碑の近くに、史実を簡潔にまとめた「説明文碑」が建立された。

同大学の名誉教授、松野保久先生は、「魚水会」の会誌第50号において、霧島丸遭難が鹿児島県教育界の一大事であったこと、その事故が日本の海事教育の一大転機となったことを後世に伝えるべく、霧島丸遭難記念碑の「説明文碑」完成を機に、日本丸模型並びに霧島丸遭難記念「壮烈」の額をセットにして、常時、公開展示できないものか、と強い思

## (プレス資料)

いを述べている。

鹿児島商船学校同窓会の野元事務局長は、同校の廃校から 60 余年が経過し、全てが歴史の彼方へ消え去ろうとしているとき、「説明文碑」の建立について、松野先生から、高齢化した同窓会にお声掛け下さったことに深く感謝する、と述べている。

### 4 全船協のホームページによる訴え

鹿児島商船学校の出身者は日本各地の船会社や港で活躍しており、全船協は、その同窓会の京浜支部とも密な連絡をとりながら活動してきた。

53 柱の御霊を「戦没船員の碑」に奉安したことや「説明文碑」の完成についても、速やかに全船協のホームページに掲載した。

これらの活動は、霧島丸遭難の事実を風化させてはいけない、という全船協としての訴えでもあった。

## 第Ⅲ 日本丸・海王丸と全船協の誕生 80 周年

### 1 全船協の創立 80 周年記念行事

全船協（内田 成孝 会長）は、平成 22 年、創立 80 周年を迎えるに当たり、記念行事を行うこととした。

記念行事のテーマは、初代の帆船練習船日本丸・海王丸と全船協が、共に 80 歳を迎えるのはなぜなのか、歴史をつまびらかにすること、とした。

初代日本丸は、横浜市内みなとみらい地区にある「日本丸メモリアルパーク」に保存・活用されており、この場所において、「全船協 Week in 帆船 日本丸」と銘打った記念式典と展示を、平成 22 年 8 月に実施した。

展示は、練習船の遭難などの苦難の歴史、日本丸・海王丸の建造、十一会結成と全船協の歩み等を示すパネル展示とした。

平成 22 年 10 月末、初代海王丸が保存・活用されている、富山県射水市内の「海王丸パーク」に、二代目の帆船練習船「海王丸」が入港し、新旧 2 隻の帆船が顔合わせしつつ、各種行事が企画・実施される機会を捉え、上記パネルを展示した。

### 2 霧島丸遭難に関連した史実の新たな発見

全船協の歴史をパネル展示するに当たり、霧島丸遭難は避けて通れない、極めて重要な史実であり、霧島丸遭難記念碑の近影の写真送付を、全船協事務局長から、その縁戚関係にある小松正治鹿児島大学水産学部准教授に依頼した。

同准教授から、写真とともに、霧島丸関連の記事が掲載されている「魚水会」の会誌が送られてきた。

その会誌により、日本丸模型のこと、「壮烈」の額が写真集であることなど、を新たに

## (プレス資料)

知ることとなった。史実を風化させてはならないと活動してきた全船協として、驚きであり、また、鹿児島地の地で行われている、その活動との連携の必要性を認識した。

記念碑の近影だけでなく、「魚水会」会誌まで送付下さった同准教授のご配慮に深く感謝した次第である。

### 3 全船協会長の鹿児島への想いと表敬訪問

「魚水会」会誌の記事に感銘を受けた全船協の会長は、全船協の会報で「ルーツの大切さ、心の継承の尊さ」として、その記事を引用しながら、鹿児島地の地での活動について、言及した。

具体的には、「全船協生みの原点が、鹿児島地の地にあり、同窓の互いの力によって、史実を風化させず、延々と後世に伝えようとする努力がなされている」として「チャンスを作り、全船協として、鹿児島大学水産学部を訪問して、敬意を表したいと思う。」と述べた。

小松先生（前述）を通じて、水産学部長である野呂忠秀教授に連絡を差し上げた。「説明文碑」の除幕式において、水産学部と商船学校の繋がりを強めていきたい、と述べていられた同教授は、快諾下さった。

平成22年12月24日、会長及び事務局長が同学部を表敬訪問し、野呂学部長の丁寧な応対を受けた。霧島丸遭難記念碑に献花し、「魚水会」関係者と鹿児島商船学校同窓会の事務局長とともに、53柱の御霊を弔った。その後、学部長から、日本丸模型や「壮烈」の額の説明を受けた。

### 4 強烈な印象の「壮烈」の額

「壮烈」の額は、教室のある廊下壁面に掲げられていた。

保存状態も比較的良好なためか、額に収められた、80数年前の霧島丸遭難で散った実習生・乗組員の遺影と氏名、葬儀の様様、捜索・救助に従事した船舶の船影等が、二度と海難を起こしてはならない、と強く訴えかけており、強烈な印象を受けた。

「壮烈」の文字は、霧島丸遭難記念碑に刻まれた題字とともに、東郷平八郎元帥の直筆であり、当時の鹿児島を大きく揺るがした海難であったことを窺い知ることができる。日本丸模型も良好に保存されていた。これと、霧島丸遭難記念碑とその説明文碑及び「壮烈」の額とをセットにし、常時、展示・公開したいという、松野先生の強い思い（前述）に共感した。

## 第Ⅳ 航海訓練所練習船の鹿児島大学水産学部表敬訪問

### 1 全船協から航海訓練所への提案

全船協は、鹿児島大学水産学部への表敬訪問の後、早速、航海訓練所（岡野良成 理

## (プレス資料)

事長)に、表敬訪問の状況とともに、全船協として新たに知った史実について、伝えた。さらに、航海訓練所の練習船が鹿児島に入港する機会に、同学部へ表敬訪問することについて、提案した。

航海訓練所は、「壮烈」の額と日本丸模型が同学部に保管されていることに驚くとともに、同所内においても史実が風化しつつあることを認識し、鹿児島に寄港する予定のある練習船と調整の上、平成23年の年明け早々から、表敬訪問を実行する意向を示した。併せて、同所は、平成19年に海洋基本法が成立、施行されたこと、国民の海に関する関心が決して高いとは言えない現状を踏まえ、水産教育と商船教育の繋がりにとどまらず、広く海洋・海事に関わる関係者の連携強化の必要性に触れた。この点、全船協として全く同感であり、鹿児島大学水産学部への表敬訪問時における野呂学部長との面談などを通じ、同学部としても同感であろう、と信じた。

## 2 鹿児島県立商船水産学校の霧島丸と航海訓練所との縁

初代大成丸は、霧島丸が遭難した直後の昭和2年3月21日に鹿児島港に入港し、翌日、船長が鹿児島商船学校を訪問して弔意を表した。その訪問のために鹿児島湾を北上する同船の姿を、霧島丸の生還と勘違いし、大騒ぎになった、との新聞報道のことを聞いた。ご遺族はじめ鹿児島県関係者の気持ちがよく分かる。

霧島丸遭難記念碑に、捜索に努めた船として大成丸の名が刻まれており、「壮烈」の額には、その船影が収められている。

初代日本丸・海王丸が竣工するまでの間、鹿児島商船学校は、初代大成丸や神戸高等商船学校の進徳丸に実習を託した。

鹿児島大学水産学部の附属練習船「かごしま丸」の初代は、運輸省航海訓練所から移管された曙丸の代替船として昭和25年に建造され、現在、その三代目が活躍している。

## 3 航海訓練所練習船の表敬訪問実現へ

今年1月に大成丸及び青雲丸が、2月には海王丸が鹿児島に入港する予定であり、各船の鹿児島大学水産学部への表敬訪問について、本船と同学部との打合せをしたい旨、航海訓練所から、全船協に連絡があった。これを踏まえ、全船協会長は、水産学部長に対し、協力を依頼した。

1月17日、大成丸の川路勉船長(鹿児島県出身)他幹部2名が、鹿児島大学水産学部を表敬訪問した。初代大成丸と霧島丸の関係にかんがみれば誠に相応しい、表敬訪問の第一船であった。

青雲丸の表敬訪問に続き、この度、海王丸二世の表敬訪問が実現する。霧島丸53名の犠牲と引き換えに、世界に誇る帆船練習船として日本丸・海王丸の姉妹が建造されたことに思いを馳せ、近い将来、その姉である日本丸の二世の表敬訪問が実現することを期待したい。

## 第 V 今後に向けて

### 1 霧島丸遭難史実の語り継ぎ

傘寿を迎えた初代日本丸・海王丸が保存活用されている場所で、全船協の 80 周年記念行事を行った。その行事を通じて、鹿児島地で行われてきた、霧島丸遭難の史実を風化させず、後世に伝えようとする活動と、その地の一部関係者のみが知る事実について、より広く関係者の注目を引くこととなった。

海に散った霧島丸実習生と乗組員、その遺族、関係者の無念さであろう、「壮烈」の額に収められた数々の写真が、事故を二度と繰り返してはならない、と強烈に訴えかけている。

海だけでなく、鉄道や航空でも事故の発生が絶えない。安全は、永遠のテーマであり、霧島丸遭難の犠牲者とその関係者の無念さを、忘れることなく、役立ていきたいと思う。

商船系学校や水産系学校では海を目指す若者の教育が行われている。この度の全船協創立 80 周年記念行事と航海訓練所練習船の鹿児島大学水産学部への表敬訪問を契機に、両学舎において、霧島丸遭難の史実が語り継がれ、「海を恐れず、海を愛し、海を拓く」若者が育っていくことを期待したい。

### 2 海洋・海事に関わる関係者の連携強化へ

我が国は、四面を海に囲まれ、海の恩恵を大いに得ている。水産資源はもとより、海上輸送とそれを支える船員は国民生活にとって欠かすことができない。海洋基本法が公布・施行され、海洋基本計画が策定されている。しかし、国民の海に関する関心は決して高いとは言えない現実がある。

今回の航海訓練所練習船による表敬訪問を起爆剤とし、鹿児島を発信基地として、海洋・海事に関わる関係者の連携強化に繋がることを期待し、本資料を用意した次第である。

以上

添付 参考資料 全船協 80 周年記念行事パネル展より  
① 霧島丸の遭難 53 名殉職  
② 「日本丸」・「海王丸」の建造  
③ 「全国商船学校十一会」の創立

完